

留学先国名 : アメリカ合衆国

留学先学校名 : サンタバーバラシティカレッジ

留学期間 : 平成 27 年 3 月 14 日 ~ 平成 27 年 12 月 28 日

私は平成 27 年 3 月 14 日から 10 か月間、アメリカ合衆国カリフォルニア州のサンタバーバラに留学しました。3 月から 7 月の 5 か月間は現地の語学学校に通って英語力を磨き、8 月から 12 月までの残り 5 か月間は Santa Barbara City College という現地のコミュニティーカレッジに通いました。日本では大阪大学外国語学部スワヒリ語専攻に所属しており、スワヒリ語はもちろんのこと、言語に限らずアフリカの社会情勢や文化、歴史について学んでいます。スワヒリ語専攻としてタンザニアやケニアに留学する友人が多い中、「なぜアフリカではなくアメリカに留学するのか」と尋ねられました。しかし、スワヒリ語を話せるより以前に英語を完璧にすべきだ、今の社会では人並みの英語力ではやっていけない、そして、年の離れた姉がアメリカに留学していた影響でアメリカ留学が幼い時からの夢であったこと、この 2 つの理由で私は留学先をアフリカではなくアメリカに決めました。アメリカの中でも東海岸ではなく西海岸のカリフォルニアを選んだのは、幼いころから海外ドラマを見ていた影響で、カリフォルニアに対して強い憧れを持っていたからです。

留学中は、ホームシックにかかることもなく、「将来は絶対にカリフォルニアに永住する！」と心に決めてしまうほどカリフォルニアの魅力に取りつかれてしまいました。1 2 月でも半袖で過ごせるほどの温暖な気候、どこまでも続く美しいビーチ、町の至る所に立ち並ぶ美しいヤシの木、息をのむような広大な自然、見知らぬアジア人にもすぐに話しかけてくる温かでおおらかな人々、カリフォルニアの魅力をあげだすとキリがありません。日本との違いに戸惑い、カルチャーショックを受けることも多々ありましたが、すべてがよい意味で私に刺激を与えてくれました。

学業の面でもいろいろなことを経験できました。語学学校では、世界中から集まってくる年齢も考え方も全く違う友人たちとともに英語力を磨きました。中には授業にゲームを使ったり、スラングを教えてくれる先生もいて、そういった授業では、実際にネイティブスピーカーの使う「生きた英語」を学ぶことが出来ました。私は午前中のクラスを取っていたので、午後からは語学学校の友人とプールに行き泳いだり、ダウンタウンでショッピングを楽しんだり、ただビーチに寝っ転がって他愛もない話をしながら肌をこんがり焼いたり、毎日が楽しいことの連続でした。そんな中でできた世界中の友人たちとは強い絆が出来ました。彼らとはいまも連絡を取り合っており、特に仲の良かったドイツ人のニッキーは今年の夏に日本に遊びに来る予定です。

8 月から半年間通ったコミュニティーカレッジでは、毎日楽しい授業ばかりで課題も難くこなせた語学学校とは違って変わって大変な思いをしました。まず、アメリカのカレッジというのは日本の大学とは全く異なるものです。日本の大学のような入学試験はなく、必要書類を提出しさえすれば簡単に入ることが出来ます。私自身、入学許可が下りた時は「え？こんなに簡単に大学に入れるの？」と半信半疑でした。「アメリカのカレッジって余裕やな」と。しかし、入ってみてからが相当大変でした。まさに日本の大学と真逆。日本

の大学は入るのが大変、しかし入ってみてからは特に大した課題もなく、必死で勉強するのは試験前だけ。しかしアメリカのカレッジは入ってからが相当大変です。予習復習は当たり前、課題も毎日相当な量をこなさなければなりません。しかも日本人が一人、アメリカ人ばかりのクラスに交じて彼らと同じように授業を受けるのだから、授業についていけないこともしばしば。そんな時は授業が終わってから、教授、時には同じクラスの友人たちに頼んで理解できるまで説明してもらっていました。カリフォルニアの学生と言えば、ドラマなどの影響で、「どうせ毎晩パーティーばかりで勉強なんて全然しないだろう」と思っている方が多いと思うのですが、それは全くの間違いです。確かに週末の夜、特にフライデーナイトには毎週皆おしゃれをしてパーティーに出かけていき、羽目を外してどんちゃん騒ぎ、未成年飲酒で警察に連行される人もしばしば見かけました。しかし、平日はまるで人が変わったかのように授業の予習復習や課題に取り組みます。カレッジの図書館はテスト前でなくても勉強する人であふれかえていました。日本では到底見られない光景です。彼らはオンオフの切り替えが大変上手なのです。これは私がぜひとも見習いたいと思った、彼らの尊敬すべき点の1つです。また、私が素晴らしいと思ったアメリカならではのカレッジのスタイルがもう一つあります。それは、入学時に専攻を決める必要がない、という事です。アメリカでは入学してから自分の興味のある分野の授業を取り、その中で徐々に自分の専攻を見つけていく、というスタイルです。ですから、日本のように入学してから「やっぱり違う学部にすればよかったな」などというミスマッチはありません。カレッジの位置づけというのは、自分の将来をじっくりと見据えて、その上でやりたいことを見つける場所なのです。私自身日本の大学ではスワヒリ語を専攻していますが、カレッジでは日本での専攻とは全く関係のない、Social Science と Dinosaur、Fitness、そして Writing の授業を取っていました。そしてそれによって自分はこういう分野にも興味があったのか、と知らなかった自分を再発見できました。

留学中、自分の将来について考える時間がたくさんありました。留学以前は、「日本で、国際的に活躍している適当な民間企業に就職したいなー」とぼんやりと考えていましたが、今回の留学で将来の夢がはっきりと決まりました。それは外務省専門職員としてアメリカの日本大使館で勤務することです。非常に競争率が高く、目指すには相当な努力が必要な職ですが、今の私には今回の留学で身に付けた英語力、社会力、そしてコミュニケーション力があります。必ず外務省専門職員になってみせます。